

スポーツと理学療法の関係は、スポーツによって傷害・障害を有した対象者への支援と、スポーツを健康増進や機能・能力の向上および社会参加の手段として活用する視点に大別できる。

このうち、スポーツ傷害に対する理学療法では、主として運動器の機能不全を速やかに回復して、日常生活活動とともにスポーツへの復帰を目指した系統的な取り組みがなされている。さらに、傷害・再発の予防、青少年への保健活動の一環として理学療法の技術や知識を幅広く活用することが期待されている。

本特集では、理学療法を業とする範囲にとどまらず、理学療法を社会へ適用する視点を含めて、スポーツと理学療法との関係について幅広く考える一助としたい。

■スポーツと理学療法のかかわり（小林寛和論文）

わが国におけるスポーツは、年々高度化、多様化しており、それに伴って理学療法士がスポーツにかかわる機会も増加している。今後、活動機会の拡大と併せて、活動場所も医療機関やスポーツフィールド以外にも拡がっていくことが予測される。スポーツへの理学療法士のかかわりを充実させていくためにも、その中核能力と役割を明確にし、社会的な評価を得ていく必要がある。

■スポーツ傷害に対する整形外科的診断・治療と理学療法への期待（大谷俊郎論文）

本稿では、臨床で遭遇する頻度の高い代表的なスポーツ傷害を取り上げ、それに対する整形外科的診断・治療と理学療法への期待について、私見を交えて概説する。故障した選手をうまく復帰させるためには、対応する医師や理学療法士に加えて、スタッフ間の緊密な連携を可能にするコーディネーターの存在が重要になる。「医療」の枠にとらわれない、スポーツマネジメントの観点からの組織作りが重要である。

■スポーツ復帰に向けた系統的な理学療法の取り組み（尾崎勝博論文）

宮崎県では、「スポーツランドみやぎ」構想のもと、スポーツ現場を取り巻く医療や行政、地域社会での活動を通し、スポーツ復帰に向けた系統的な理学療法の取り組みが展開されている。本稿では、その具体的な取り組みを紹介し、理学療法士がスポーツ医療の分野で担うべき役割について考察する。

■スポーツ傷害の予防と理学療法—高校野球への取り組みの紹介（岡部敏幸、他論文）

静岡県理学療法士会が実施している静岡県高校野球メディカルサポート（MS）は、2012年で10周年を迎える。しかし、大会中のMSのみでは傷害予防が不十分であることから、2011年4月より年間を通して選手をサポートする目的で、MSスタッフが学校へ定期的に訪問してMS活動を行う、いわばMS訪問事業を展開してきた。選手が安心して競技に臨める環境の構築、正しい医学的知識に基づいた自己管理・チーム管理の実現のためにも、今後のMS訪問事業の拡大が必要だと思われる。

■高齢者・身体障害者のスポーツ参加と理学療法

1. 高齢者のスポーツ参加と理学療法（島田隆明、他論文）

スポーツは、チャンピオンスポーツとレクリエーションスポーツの2つの意味をもつ。中高齢者に運動を習慣付け、継続を図るためには、スポーツの2つの意味を組み合わせることが重要となる。本稿では、中高齢者を対象としたスポーツ活動の社会的な取り組みを解説するとともに、理学療法士としてシニア世代のチャンピオンスポーツにかかわった経験を通して、中高齢者の継続的なスポーツ活動を支援する取り組みについて、考察を加えて紹介する。

2. 身体障害を有する対象者のスポーツ参加と理学療法士サポート（門田正久論文）

スポーツ活動は健康増進や体力向上、生活習慣予防のみならず、精神的、社会的に多くの効果をもたらし、より活力ある生活を生み出すとされる。基礎障害を理解する理学療法士が障害者スポーツにかかわり、“スポーツの日常化”に資することは非常に重要と言える。本稿では、障害者スポーツの支援のあり方について、今後トレーナーとして活動する場面の増加が予想される競技スポーツサポートの現状を交えながら紹介する。

3. 切断者のスポーツ参加と理学療法—陸上競技の支援（駒場佳世子、他論文）

切断者のスポーツ参加の1つに陸上競技がある。切断者は陸上競技への参加により、身体機能や移動能力の向上だけでなく、社会参加の促進、QOL(quality of life)の向上を得ることができる。われわれが陸上競技で行う支援には、身体機能向上や走行練習のサポート、義足の適合評価、ピアカウンセリング、情報発信などが挙げられる。本稿では、それらに陸上競技や競技用義足の説明を加えて紹介する。